

## 播磨科学公園都市

## (株)清水電設工業



代表取締役  
清水 政義氏

- ・延床面積 487㎡ ・従業員数 3人(予定)
- ・事業内容 機能性薄膜蒸着の研究所
- ・操業開始 平成21年10月(予定)

## 立地の決め手

ナノクリスタルDLC(ダイヤモンド ライク カーボン)の新膜開発にあたって、その蒸着薄膜中にダイヤモンドの結晶に類似したナノメートルサイズのSp<sup>3</sup>構造の含有量が何%あるかでその膜の特性が決まりますが、この比率が高ければ非常に硬い硬度の薄膜が得られ、耐摩耗用の部品に適用することができます。このSp<sup>3</sup>の含有量を正確かつ大量に、高速で計測するにはニュースパルのBL5の産業用ビームラインのNEXAFSでの測定が不可欠であるため、播磨科学公園都市(光都)に研究所の立地を決めました。

## 今後の抱負

世界で弊社のようなDLCの開発をしているところはまだ非常に少なく、将来DLC薄膜のライブラリー作成に大きく貢献できると自負しております。

また、太陽電池の製造プロセスに欠かせないSi・CdTe等の結晶の分析にはニュースパルの産業用ビームライン(BL5)が非常に有用なので、大いにこれを活用させていただき、兵庫県を薄膜太陽電池の製造のメッカにしたいと考えております。

## (株)一宮電機



代表取締役社長  
秋田 遼三氏

- ・延床面積 2,400㎡ ・従業員数 27人
- ・事業内容 小型モータ開発の研究所
- ・操業開始 平成23年5月(予定)

## 立地の決め手

先端技術に関する研究施設の集積が進む播磨科学公園都市、特にSPRING-8の前に研究所を設置し、当社のイメージアップを図れば、優秀な学生の採用が図れるのではないかと考えました。JR相生駅から新幹線が利用できるため、関東方面のお客様に対して利便性があることも決め手の1つです。

## 今後の抱負

当社は家電用小型モータやデジタル家電用の極小モータの開発・製造を行っていますが、今後は、自動車に搭載される電子機器に使用する小型モータについて開発を行っていくと考えています。

これからもモータ作りを通じて、地域社会に貢献していくつもりです。

## ひょうご情報公園都市

## (株)ヤクルト本社



代表取締役社長  
堀 澄也氏

- ・延床面積 約18,700㎡ ・従業員数 約170人(予定)
- ・操業開始 平成24年4月(予定)
- ・事業内容 乳製品乳酸菌飲料の原料液やはちみつ乳類の製造

## 立地の決め手

当社は、国内乳製品工場における高品質の追求と生産・物流効率の向上、および生産コストの削減を目的として、工場再編計画を実施していますが、西日本の新工場建設の要衝の地として三木市を選定しました。近畿、中国はもとより、四国方面への交通の利便性や工業団地の中にあつて上下水道等のインフラが整備されており、今後も拡張の余地が大であるという点、県や市の企業立地支援制度の充実が立地のポイントになっています。

## 今後の抱負

ヤクルト製品のボトリング工場としてではなく、原料液製造工場(本社工場)を三木市のひょうご情報公園都市に立ち上げたことは、当社の設備投資計画の中でも、たいへん大きな比重を占めるものです。当社は、常にお客さまの視点に立ち、信頼に応える品質の高い商品をお届けするため、生産能力のバランスが取れた工場での生産を実施し、市場動向や販売数量を見きわめながら、今後もさらに飛躍したいと考えています。

## (株)コダイ



代表取締役  
小鯛 陽次郎氏

- ・延床面積 約4,000㎡ ・従業員数 20人(予定)
- ・事業内容 建設機械(油圧ショベル)の部品製造
- ・操業開始 平成22年度(予定)

## 立地の決め手

顧客からの受注拡大に伴い、現状の本社工場のみでは、生産拠点として手狭になり、生産能力の不足が懸念されたため、新規の工場用地を探していた際、「ひょうご情報公園都市」を知り、三木東ICに近接し、アクセスのよいこと、インフラ整備がされていること、兵庫県や三木市のさまざまな優遇制度が利用可能なことから、立地を決定しました。

## 今後の抱負

当社は、今まで、建設機械の足回り部品の製造を通じて、特に、無人化運転の生産システムの構築に注力してきました。

今後は、新工場設立により、今まで培ったノウハウを進化させ、高付加価値製品への挑戦をする一方、品質、コスト、リードタイム等で、より顧客を満足させる企業へ発展したいと考えています。